

## 神奈川県新産のタカネサトメシダ

著者	田村 淳, 山根 正伸, 中山 博子
雑誌名	植物地理・分類研究 = The journal of phytogeography and toxonomy
巻	52
号	1
ページ	83-84
発行年	2004-07-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/48665">http://hdl.handle.net/2297/48665</a>

田村 淳<sup>1</sup>・山根正伸<sup>1</sup>・中山博子<sup>2</sup>：神奈川県新産のタカネサトメシダAtsushi Tamura<sup>1</sup>, Masanobu Yamane<sup>1</sup> and Hiroko Nakayama<sup>2</sup>: Newly distributed *Athyrium pinetorum* Tagawa in Kanagawa Prefecture

神奈川県丹沢山地で本県新産となるタカネサトメシダ (*Athyrium pinetorum* Tagawa) の生育を確認したので報告する。

タカネサトメシダ (イワデンド科) は本州の東北地方から中部地方にかけて、および徳島県剣山に分布し、亜高山帯の針葉樹林下に生育することが知られている (倉田・中池 1990)。倉田・中池 (1990) によると、神奈川県では山梨県と静岡県富士山周辺、および埼玉県、山梨県、東京都境の秩父山地で分布が報告されている。どちらも亜高山帯針葉樹林が発達する地域である。一方で神奈川県丹沢山地では、最高峰の蛭ヶ岳 (標高 1,673 m) を筆頭に 1,600 m を超える峰があるものの、亜高山帯針葉樹林は存在しない。そのため、丹沢山地におけるタカネサトメシダの分布は貴重といえる。

発見したのは丹沢山地東部の尾根上 (標高 1,370 m) で、ニホンジカ (*Cervus nippon* Temminck, 以下シカ) から植物を保護する目的で設置された植生保護柵内に 2 株生育していた。付近の植生はブナ、イタヤカエデ、アラゲアオダモ、ヒコサンヒメシャラなどから構成される広葉樹林で、

林床にはスズタケ、クロイチゴ、オシダ、イワシロイノデなどが生育していた。

生育地周辺は 1960 年代にスズタケが密生していた (宮脇他 1964) が、1980 年代後半からシカの過度の採食圧によりスズタケが退行し (羽山他 1994)、1997 年に植生保護柵を設置した地域である。スズタケが密生していると草本類はほとんど生育できないことから、スズタケが退行したこととシカの採食圧を除去したことがタカネサトメシダの生育に正の影響を及ぼしていると考えられる。

タカネサトメシダはコシノサトメシダ (*Athyrium neglectum* Seriz.) に類似するシダである。近隣地ではコシノサトメシダも県新産として報告されている (田村 1998)。両者の区別点は、タカネサトメシダが葉身の中部から上の方で羽片基部の小羽片がやや外先に出るのに対し、コシノサトメシダは小羽片がほぼ対生に出るため羽片に柄がはっきりとあることである (中池 1992)。今回採集した標本 (Fig. 1) はこの点の他に葉身が 3 角形状になることからタカネサトメシダと同定された。標本は神奈川県立生命の星・地球博物館に納めた。

この報告にあたり、標本を同定していただいた元千葉県立中央博物館の中池敏之博士、ならびに標本採集を許可していただいた神奈川県自然環境保全センター自然公園課の許認可担当者にお礼申し上げる。



Fig.1. A specimen of *Athyrium pinetorum* Tagawa from Kanagawa Prefecture. Bar =100 mm.

## 引用文献

- 羽山伸一・古林賢恒・三谷奈保・山根正伸. 1994. 丹沢山地におけるササの退行とニホンジカの状況. WWF Japan Science Report 2(1): 21-47.
- 倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 分布・生態・分類 - 6. 881 pp. 東京大学出版会, 東京.
- 宮脇 昭・大場達之・村瀬信義. 1964. 丹沢山隩の植生. 国立公園協会(編). 丹沢大山学術調査報告書, pp.54-102. 神奈川県, 神奈川.
- 中池敏之. 1992. 新日本植物誌 シダ篇 改訂増補版. 868 pp. 至文堂, 東京.
- 田村 淳. 1998. 神奈川県新産のコシノサトメシダ. *Flora Kanagawa* 47: 532.  
(<sup>1</sup>〒243-0121 厚木市七沢 657 神奈川県自然環境保全センター; <sup>2</sup>〒248-0015 鎌倉市笹目町 10-7 <sup>1</sup>Kanagawa Prefecture Natural Environment Conservation Center, Nanasawa 657, Atsugi 243-0121, Japan; <sup>2</sup>Sasame 10-7, Kamakura 248-0015, Japan)